

住友四百年

源
泉



第三話 「江戸の出逢い」
作: 西ゆうじ 画: 長尾朋寿

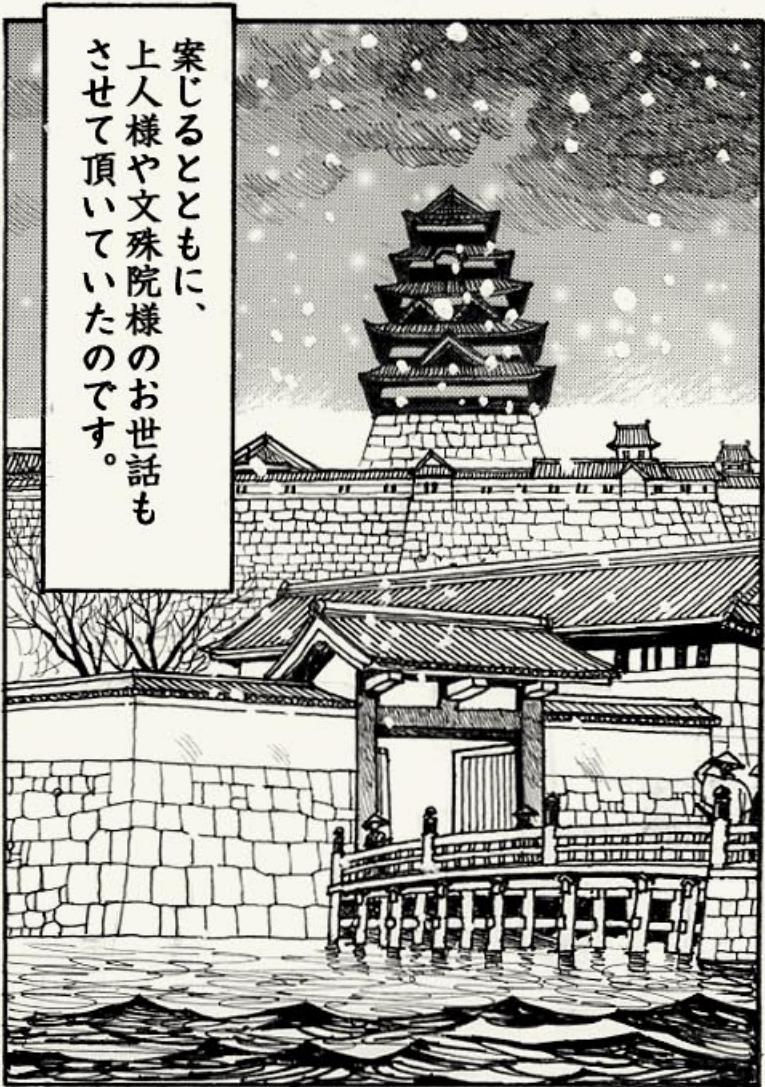
元和二年（1617）
一月十六日

及意上人様をはじめ、
文殊院様（空禅）方が
江戸に呼び出されて、
幕府が今後の涅槃宗のあり方の
裁定することは当然、
江戸の信者達も知つており、

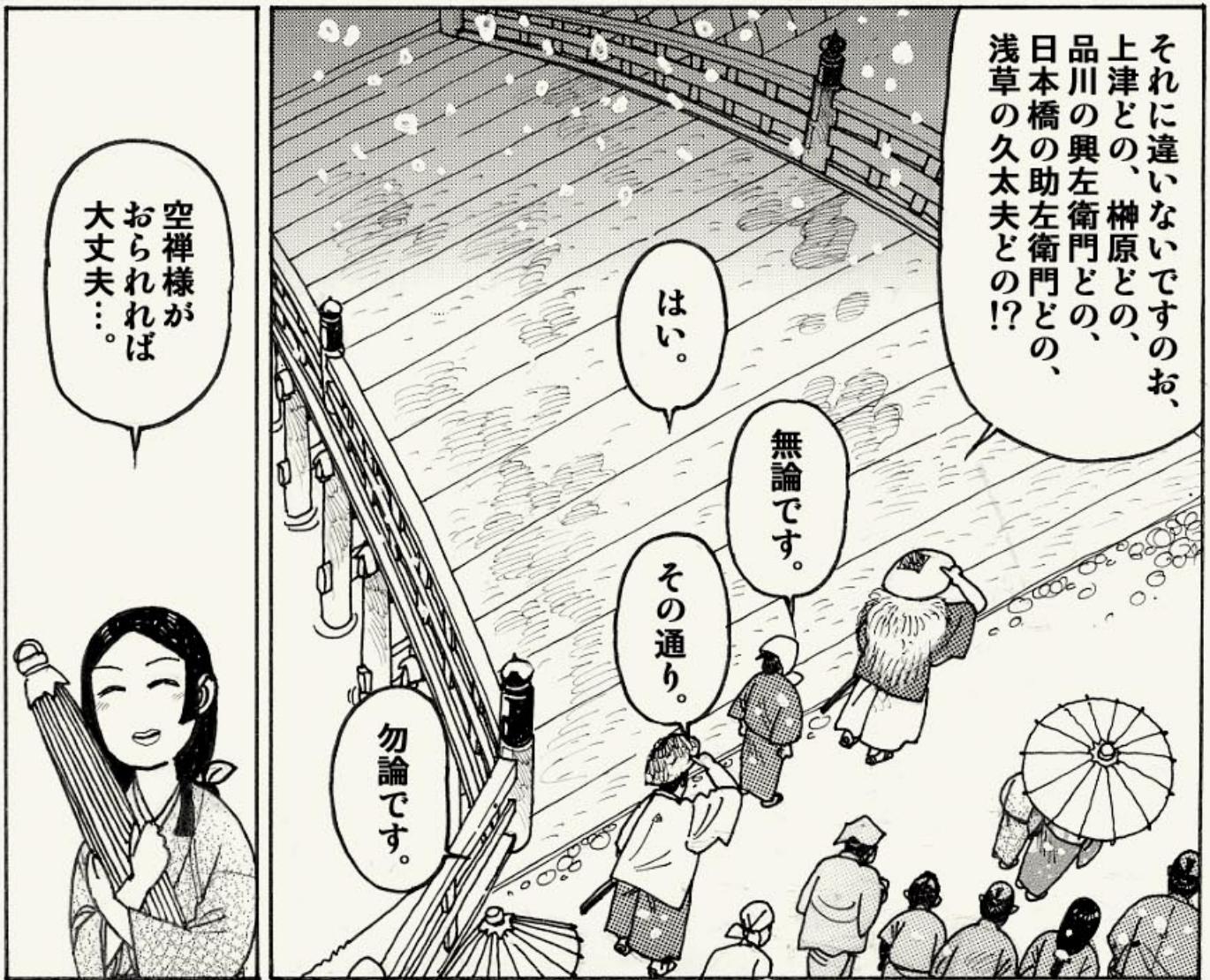


案じるとともに、
上人様や文殊院様のお世話を
させて頂いていたのです。

その中に、幕臣の岩井（後の永田）
善右衛門、その妻、そして娘…
わたくし、亀もおりました。

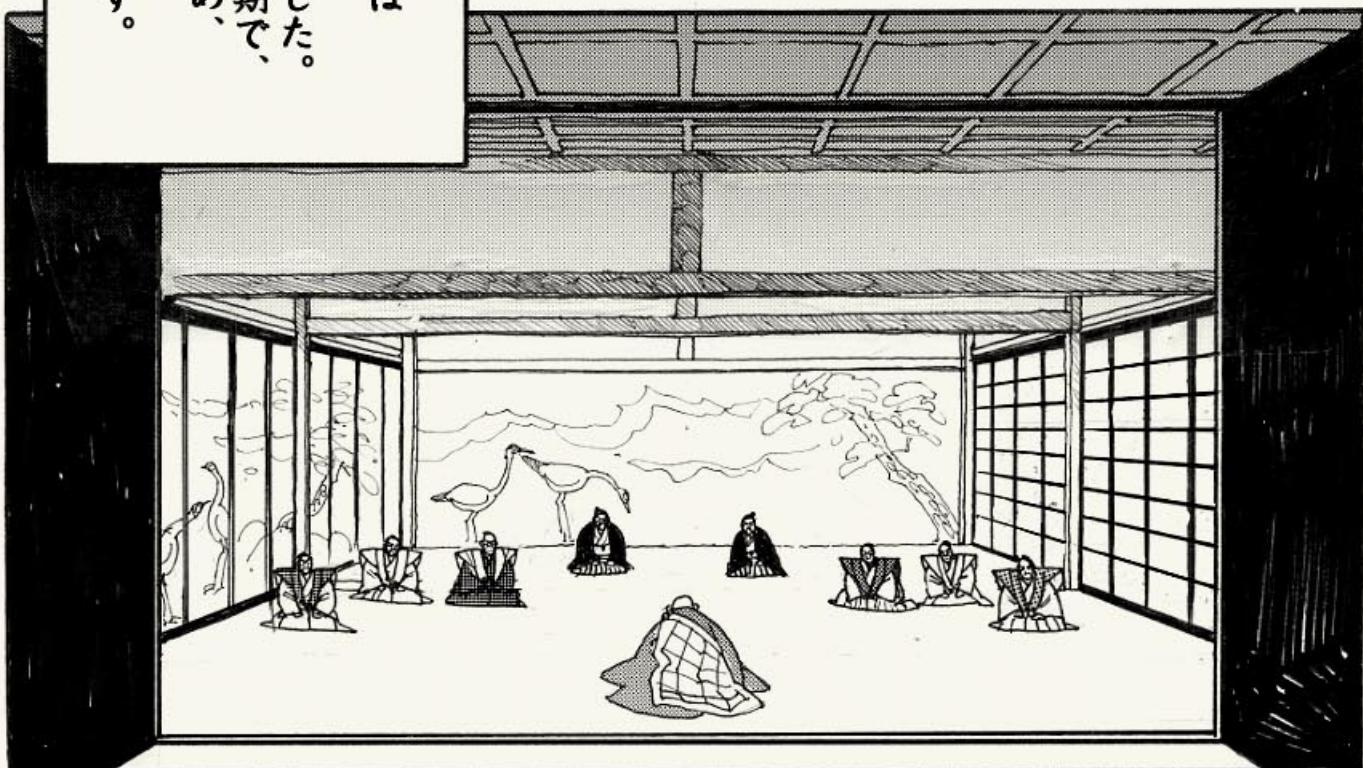


○この作品は、住友の歴史を参考にして創作された物語です。○





しかし、父やわたし達は
予断を許さない時期で
あることを知つていました。
幕府が宗教政策の確立期で、
キリスト教禁止をはじめ、
仏教をも法制度の下で
監視してたからです。



文殊院様は、上意により、
京の所司代での時と同様に、
幕閣の御奉行、大名、
鎌倉の諸学僧、儒学者など：
方々の前で涅槃宗の立場を
陳述されることになりました。



釈尊一代の諸經は七千余巻、
そのうち各々が志すところの
證文を抽出して
自宗の本懐とし、
宗を立てることでございます。



それゆえ、天竺には千宗、唐には百宗、本朝には十宗と分かれております。この外に新儀に宗旨を立てることが…

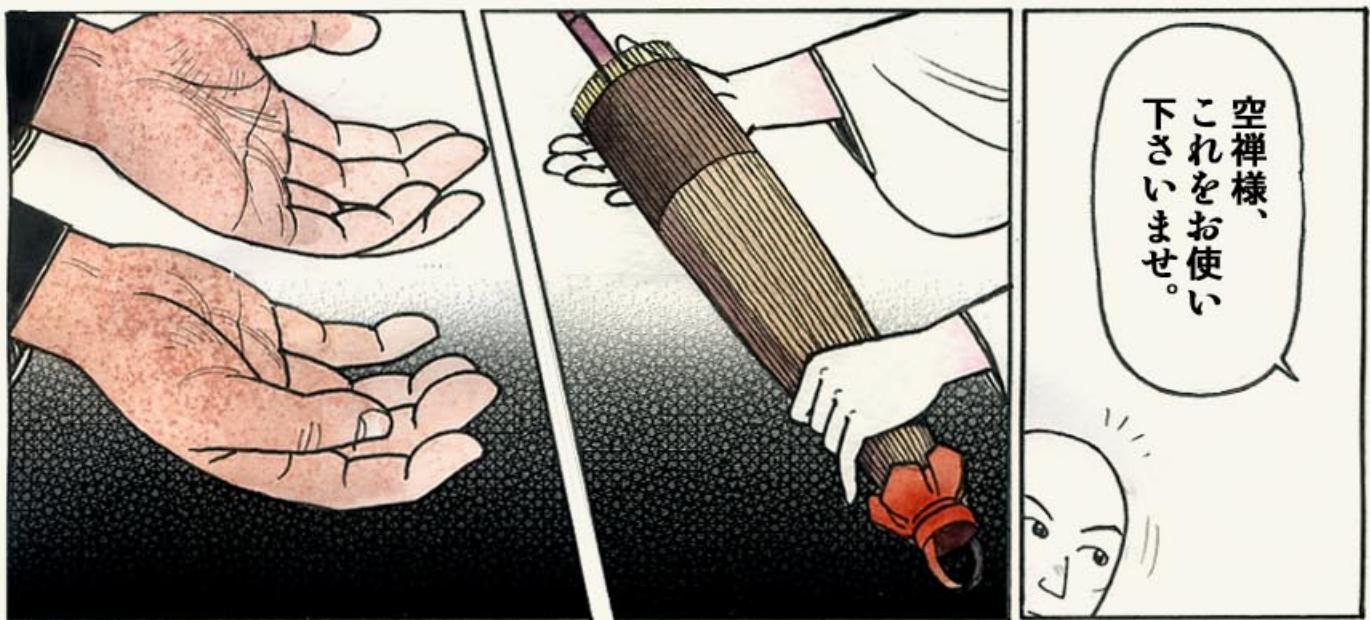
…邪法である
という子細でも
ござりましようか？

我が宗は、
釈尊出世の本懐たる
法華涅槃の二經を
所依とし、

勅許を蒙つて説く
法門でございます。
しかも、余經他宗を
誹謗することも
決してございません。

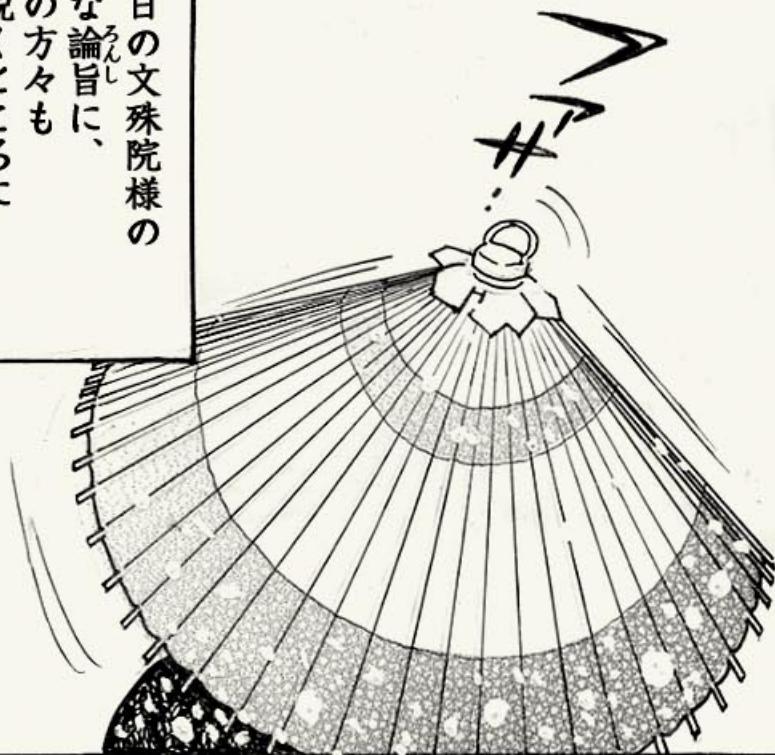
空禪
さま～っ！





心遣いに感謝いたします。ありがとう、亀どの。

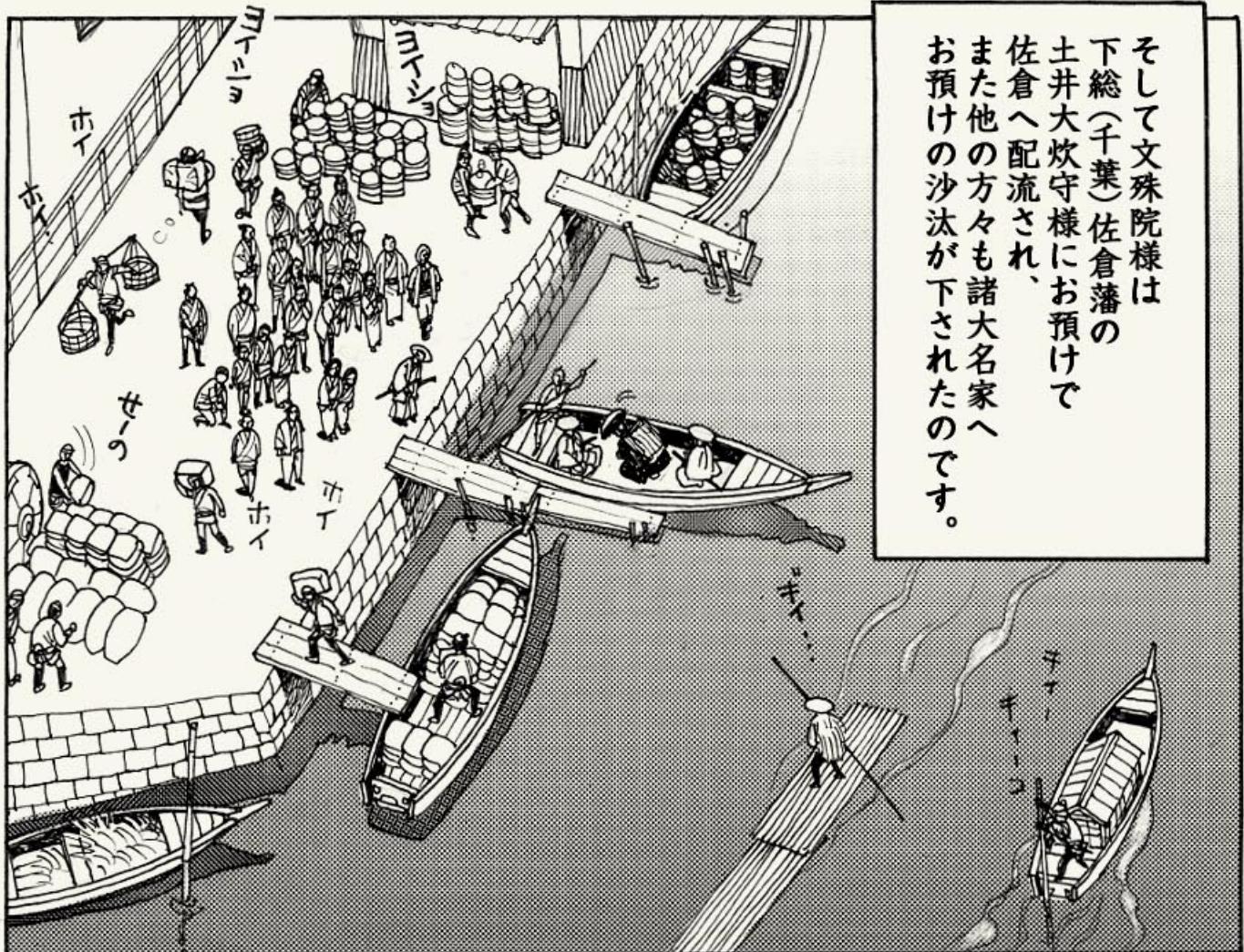
この日の文殊院様の
摯実な論旨に、
幕閣の方々も
その説くところに
服したように
思われました。



幕府は尚の取り調べの
要があると判断し、
教祖の及意上人様は
厩橋藩（前橋藩）の
酒井雅楽頭様下屋敷へ
お預け。



そして文殊院様は
下総(千葉)佐倉藩の
土井大炊守様にお預けで
佐倉へ配流され、
また他の方々も諸大名家へ
お預けの沙汰が下されたのです。



いや、今回
違うようだ。



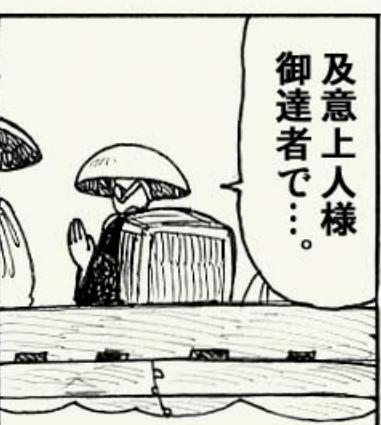
...!
?



こういつてはなんですが、
徳川様は全國諸藩を
少しでも減らしたいようで
何かといつては取り潰しを
なされていますからね。
無論そうなる。万が一、
空禅様や及意上人様に
何か粗相(そぞう)があれば、
お預かりしている大名は
取り潰しとなりかねん
からのお。

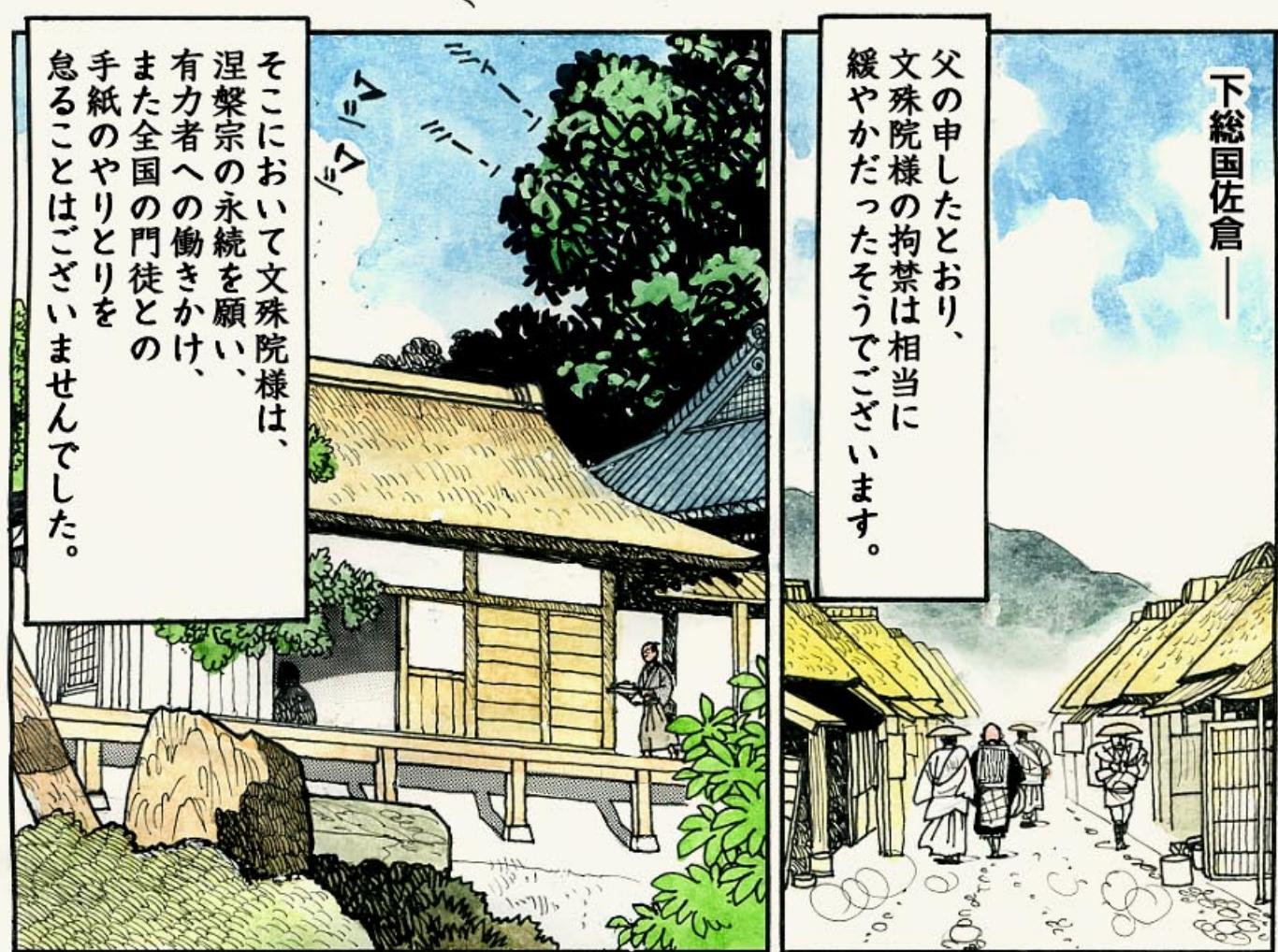


及意上人様
御達者で…。

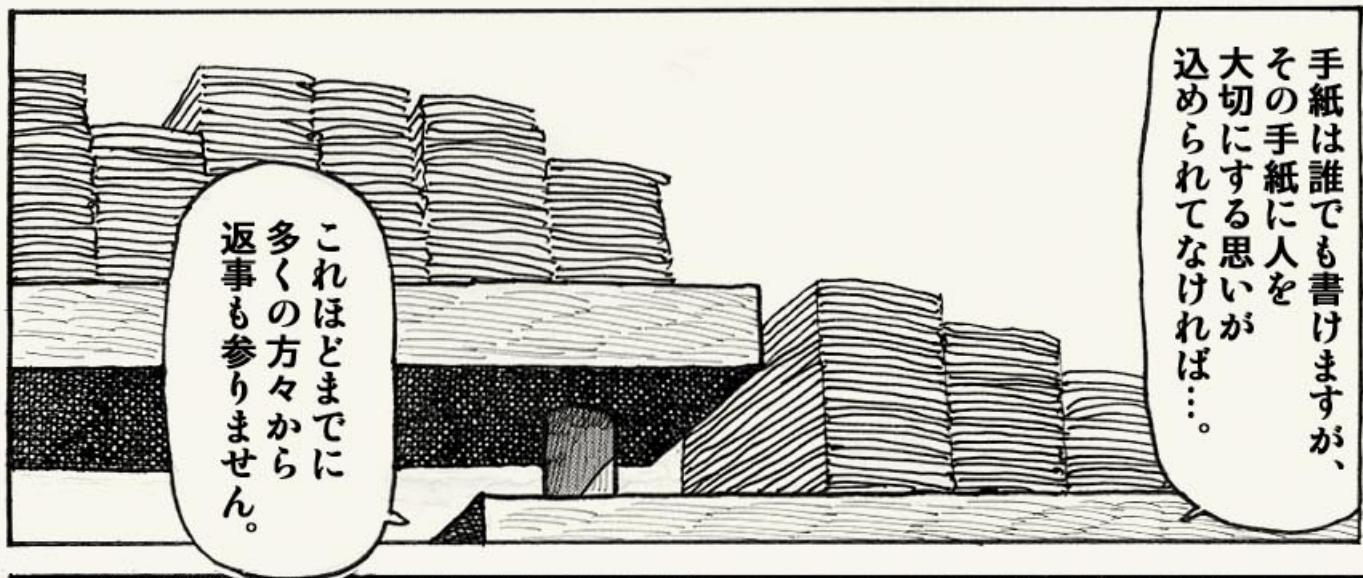
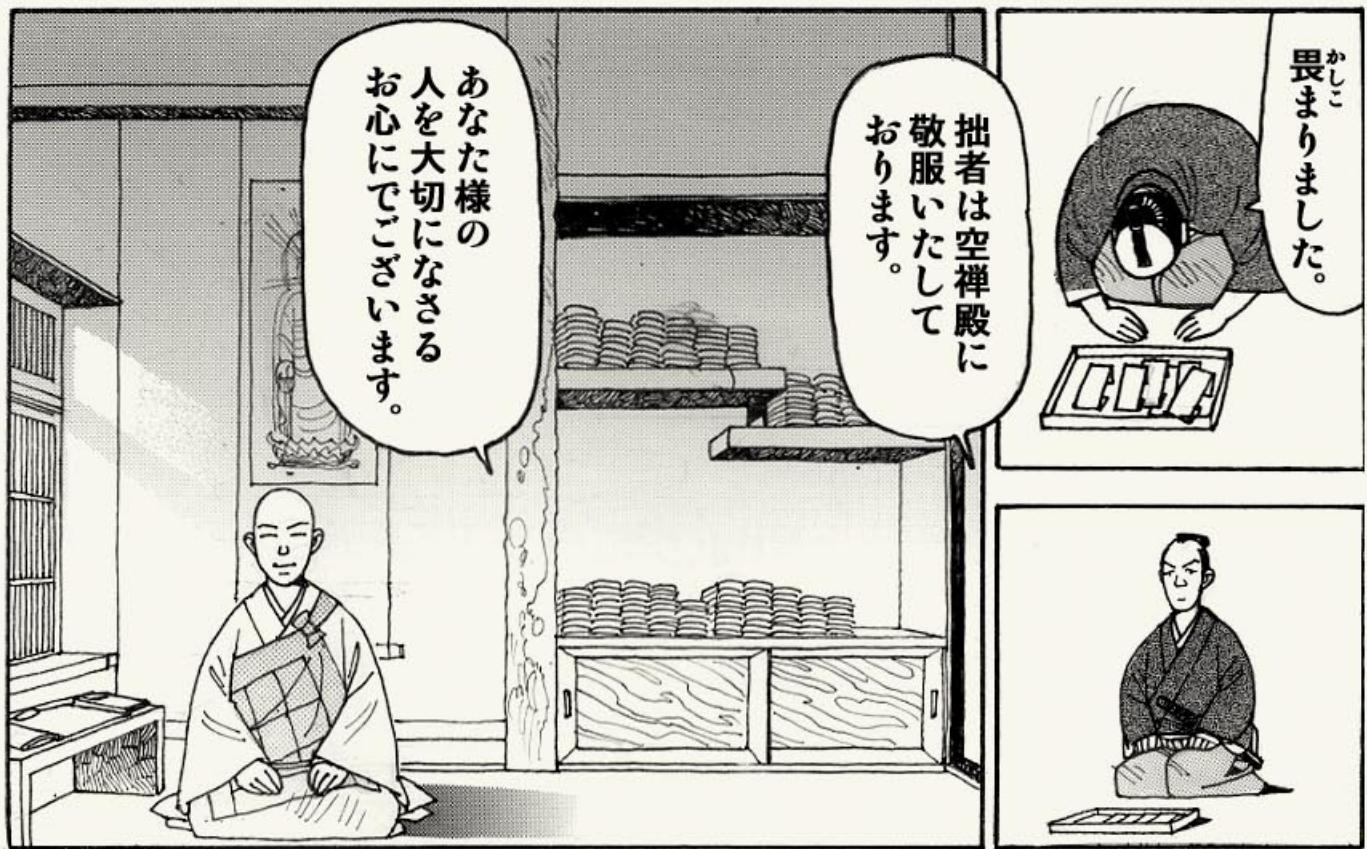


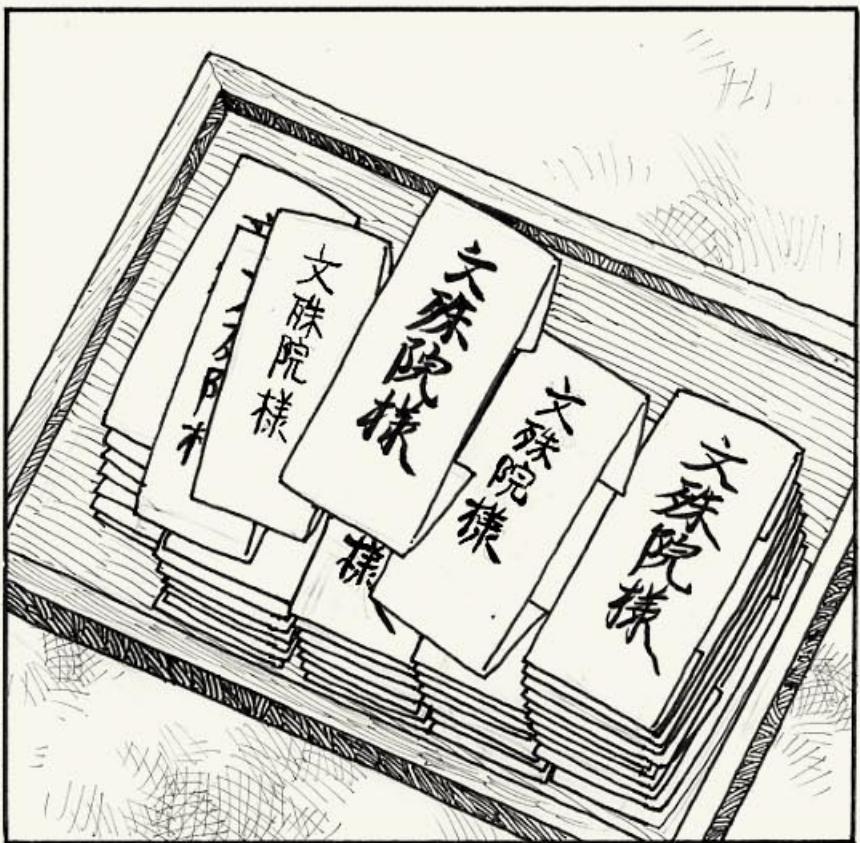
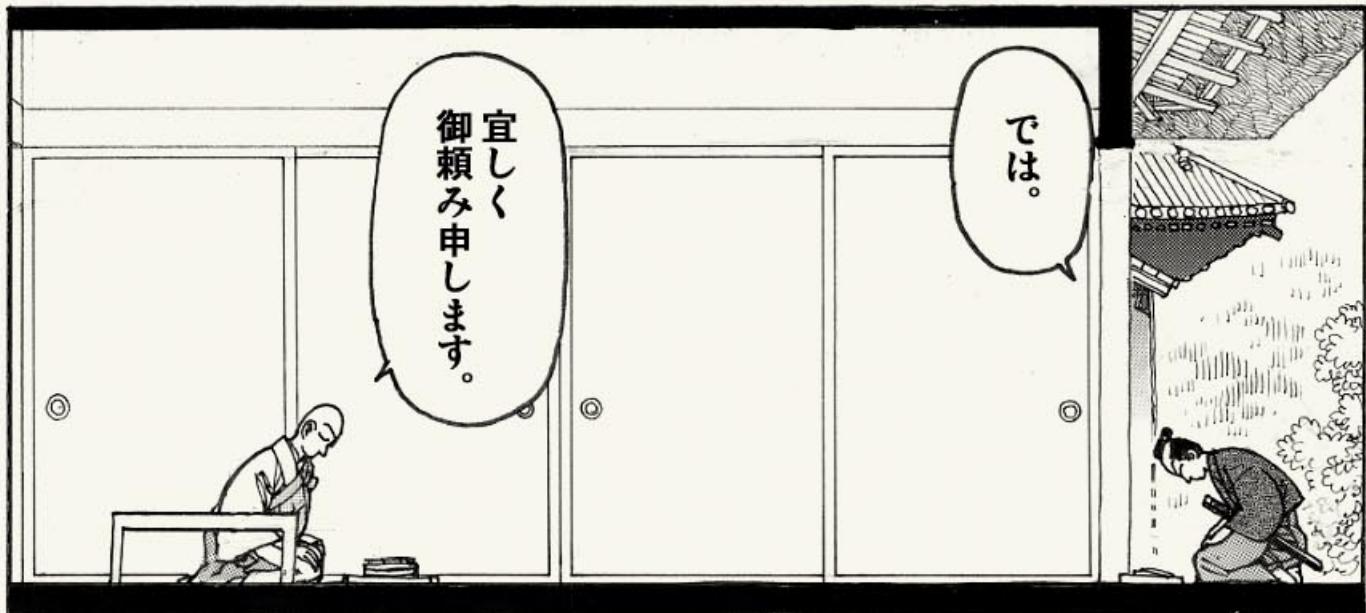
空禅様は土井家に
お預けとなれば、
おきつい監視の目があり、
厳しい生活となられる
のでしょうか？











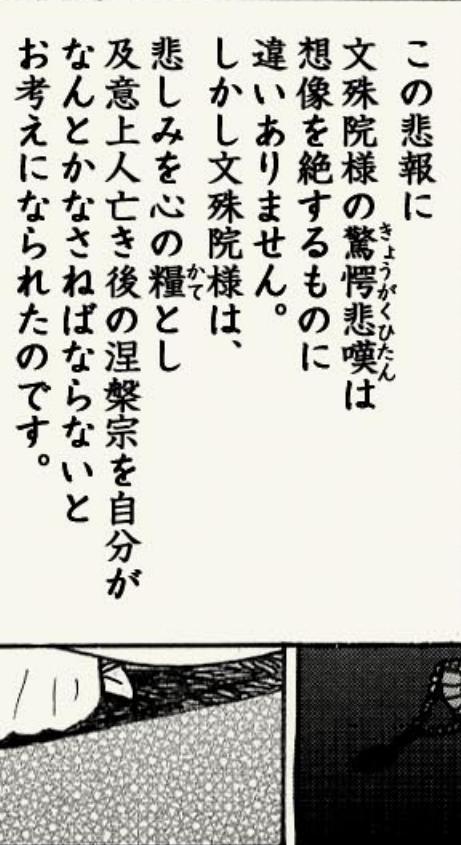


その日、届いた手紙のひとつは、
その年の六月下旬より
病床についておられた
及意上人の訃報
だつたのでござります。



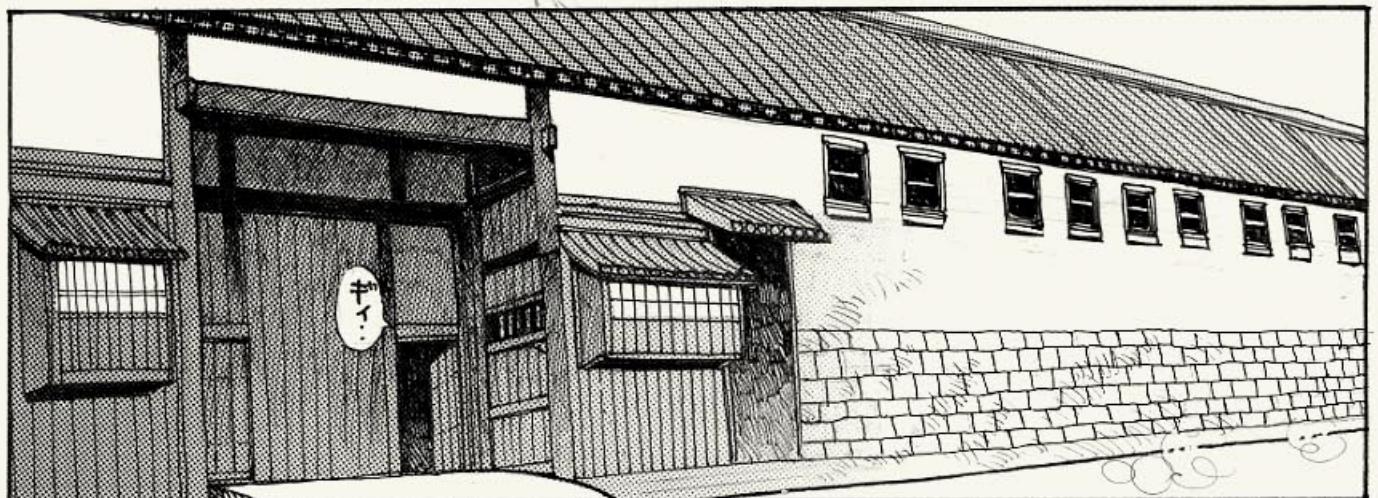
前日の八月七日、
及意上人は
五十七歳をもって
帰寂されたのです。





そして一門の僧達、
江戸の信者、京、大阪、堺、播州、
紀州などの信者に対して、
及意上人の二人の子息
臺玉上人、賢海様を立てて、
復興に努力しようと
熱意を込めた手紙を送ったのです。





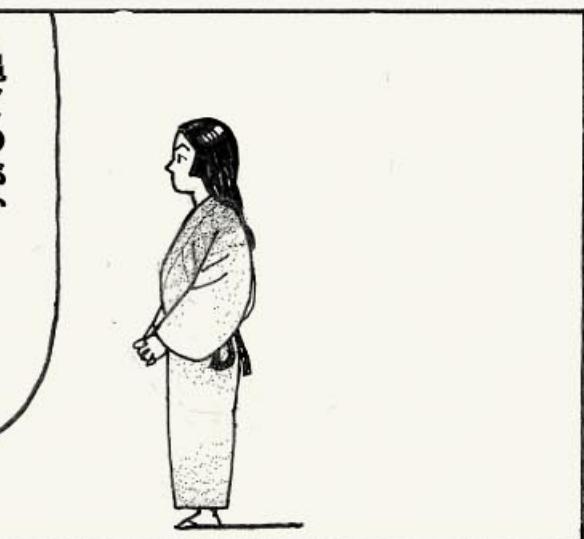
川越の喜多院におわす
天台宗山門の天海僧正様に
取り成して頂けることに
なりました。

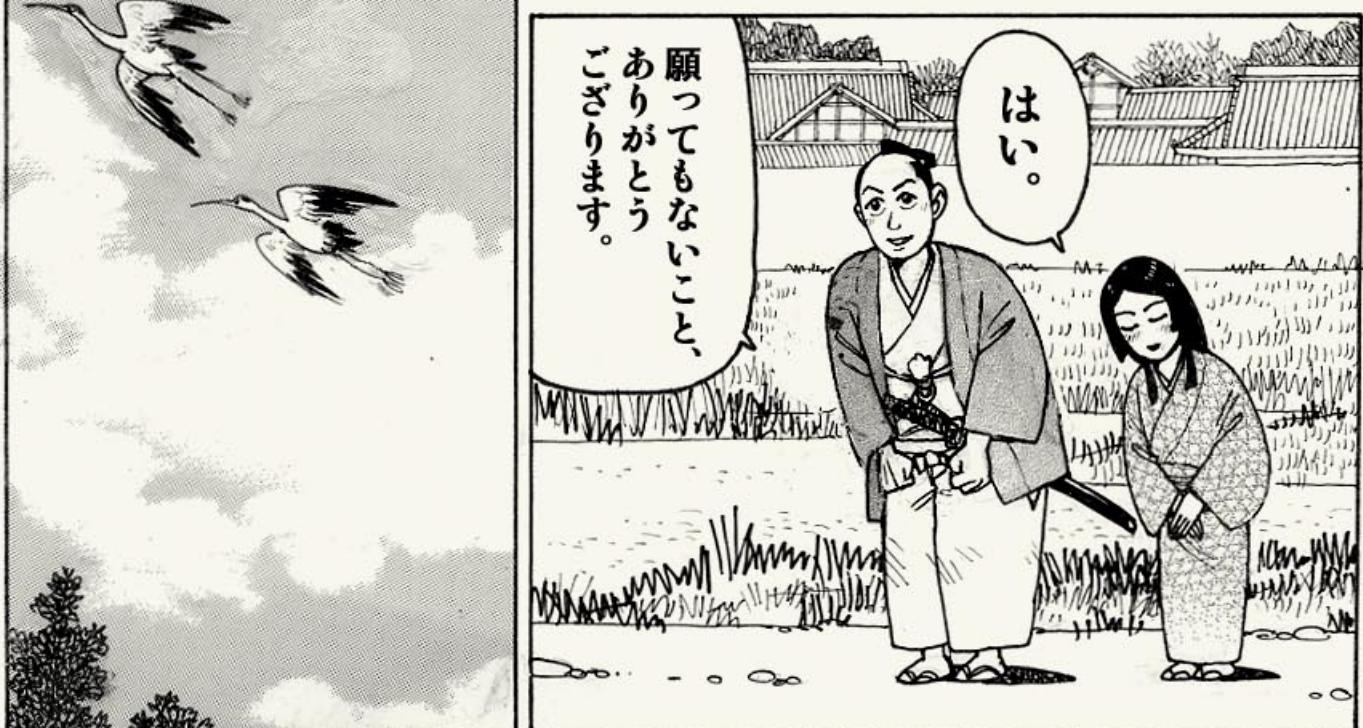
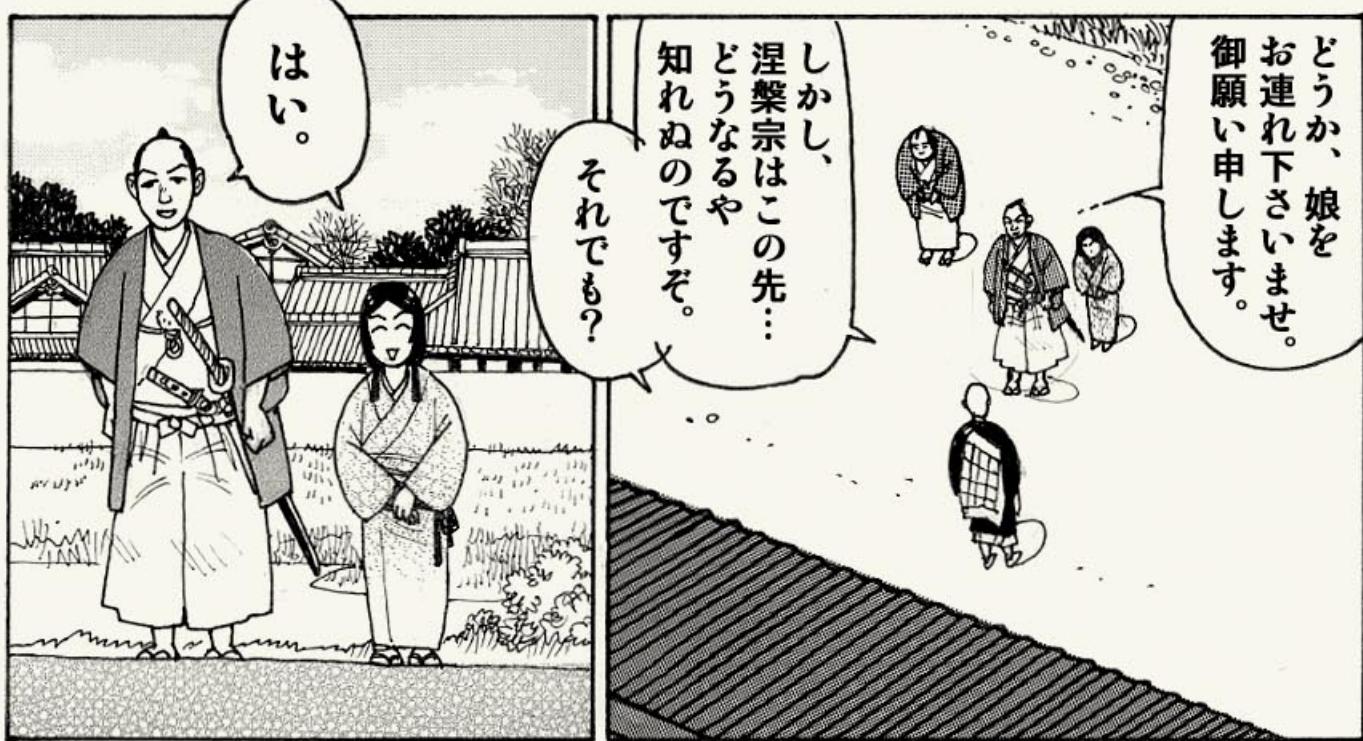
天海僧正といつたら、
上野の寛永寺を
創建されたり、
亡くなられた權現様を
久能山から日光山に
東照台權現として
改葬されたお方！

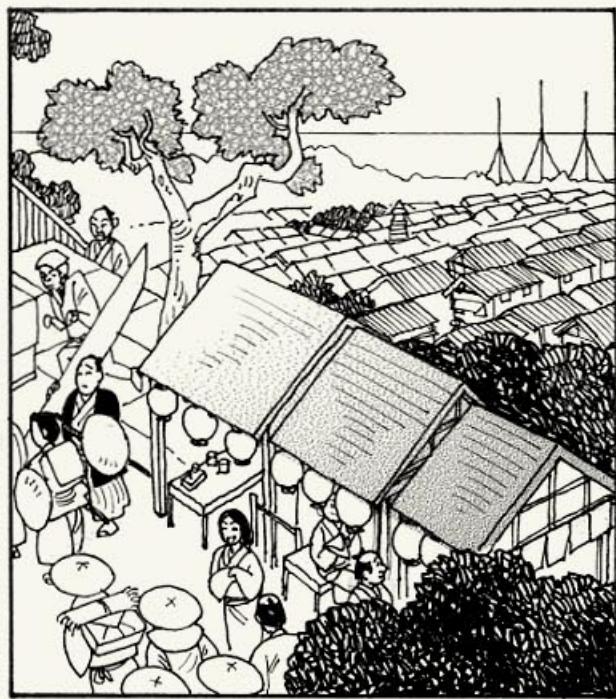
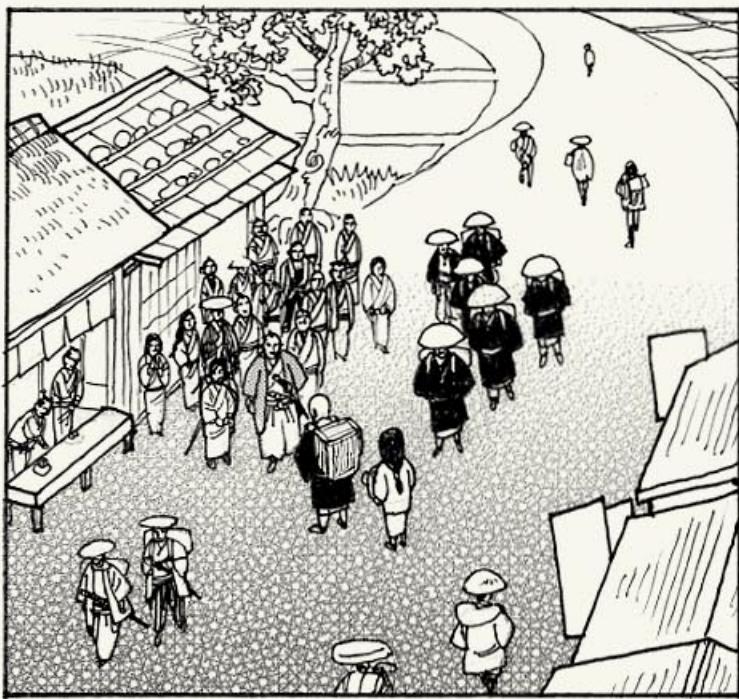
また權現様の帰依を受けて
政治にも参与され、
幕府に対しても絶大な
影響力もお持ちです。

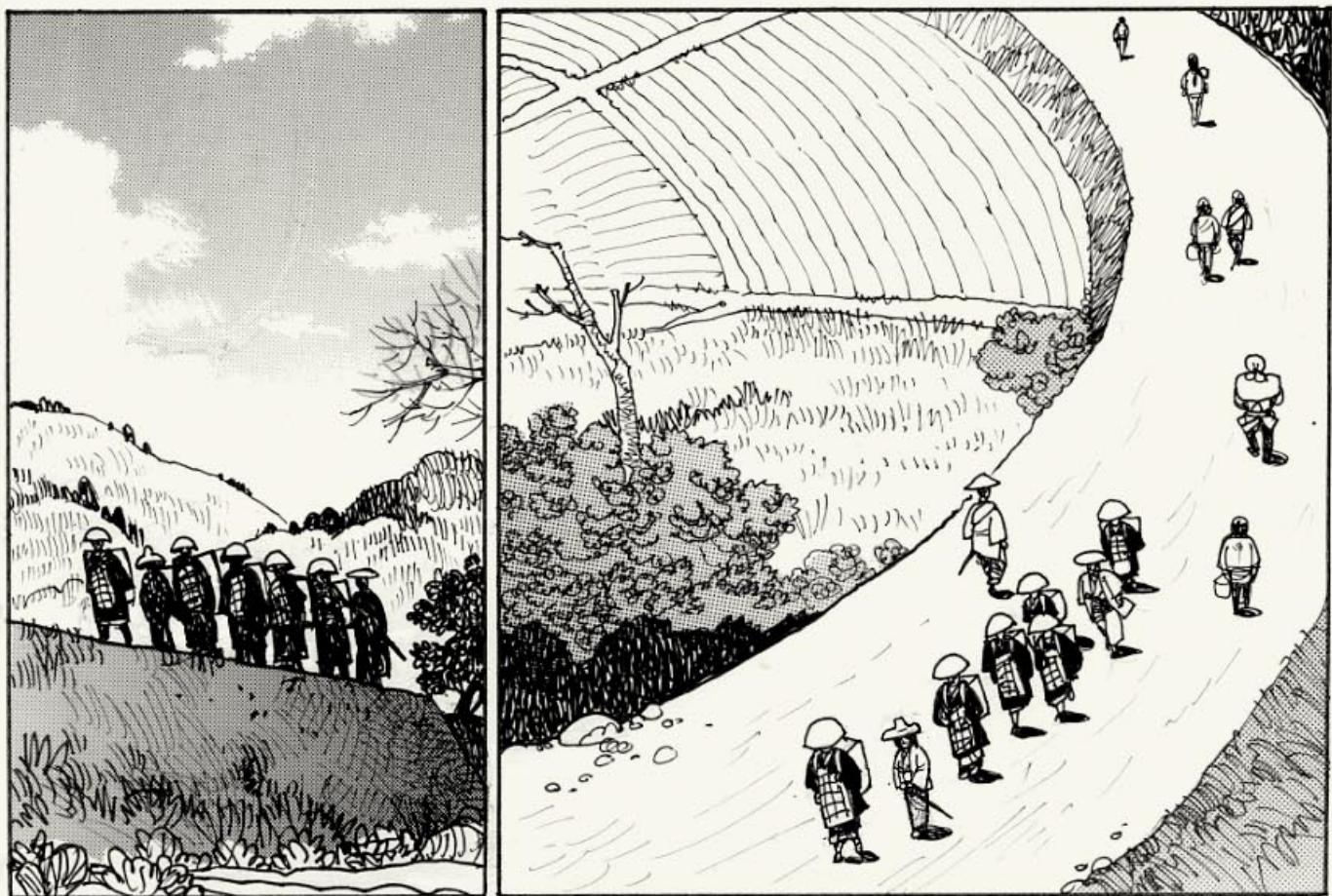
はい。しかし、
天海僧正様が
動いて下さるか：
動いて下されても、
その結果が出るのは
まだまだ先に
なりましょう。

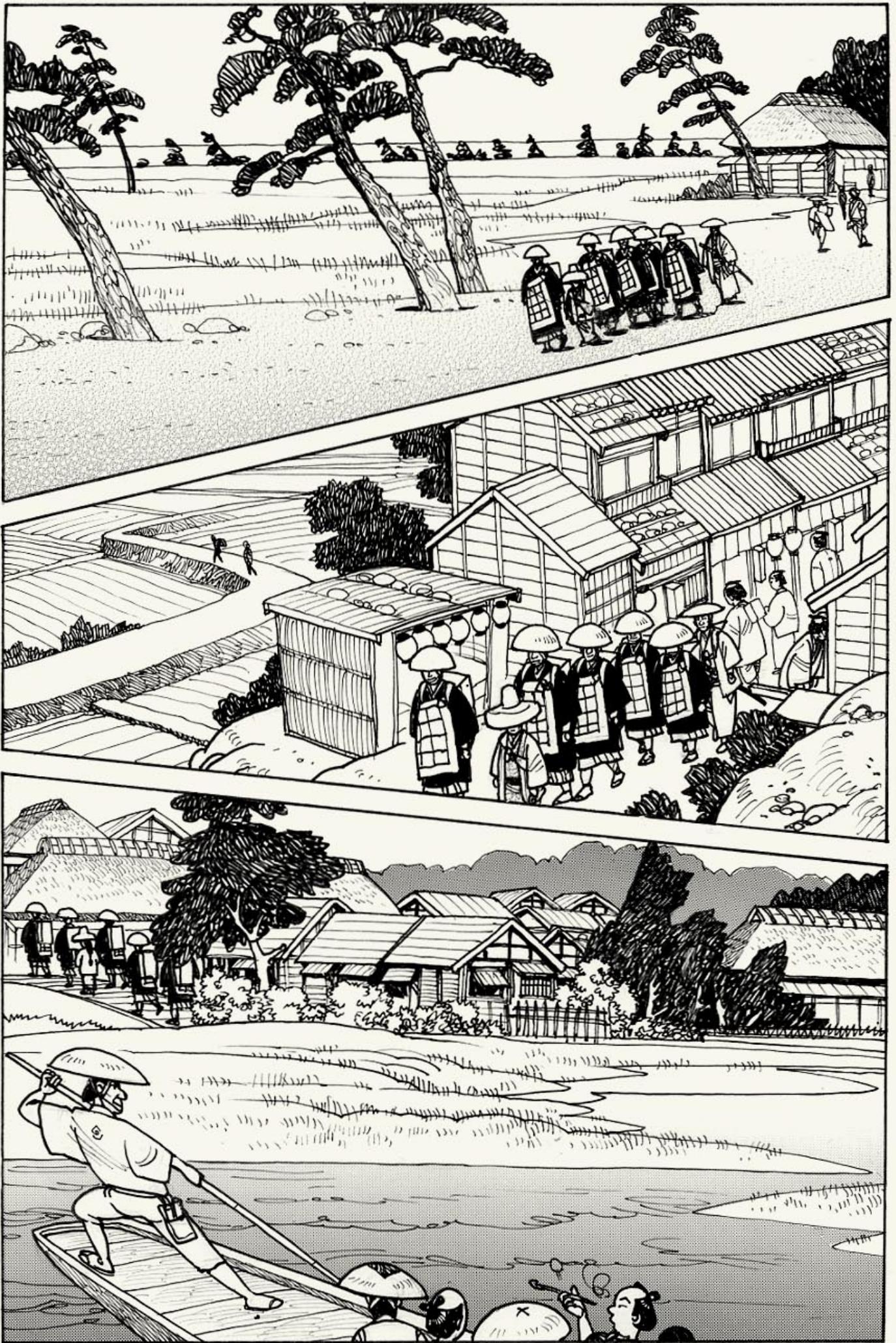
ですから、
わたくしは京に戻り、
違う方向からも
復興に努力いたそうかと
思います。











空禅様
富士のお山が
あんなに
大きく見えます！

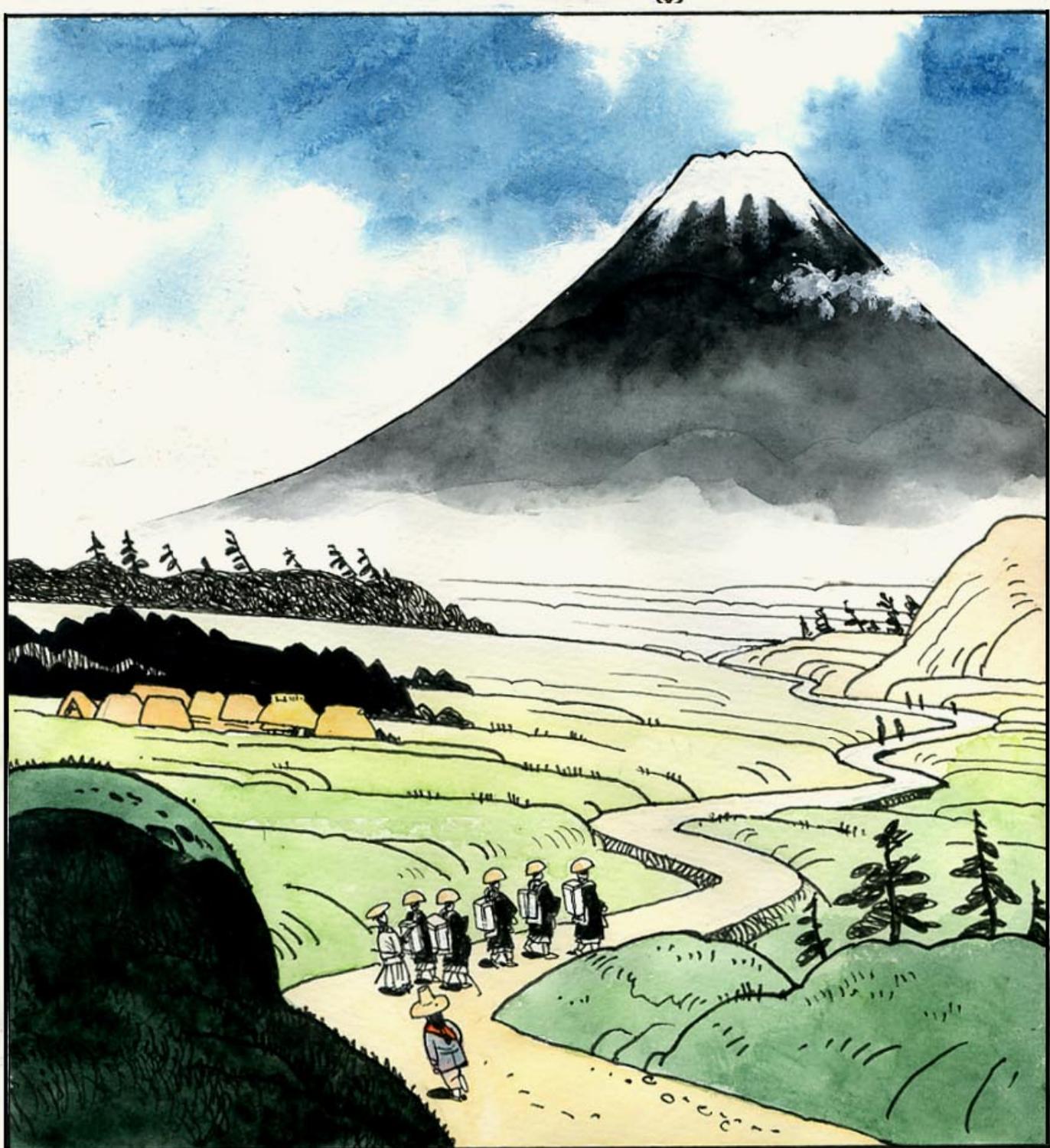
うん。富士はその美しさ、
大きさは日本一のお山。
何事も目指すものは、
あの富士のようでありたい。

ただし山は高くなればなるほど、
風当たりも強くきついのです。
しかし、富士はそれに耐え、
微動だにせず、
美しく大きいのです。

そんな素晴らしい
富士を、人としても
目指したい。

はい。
わたくしもで
ござります。

うん。
共に目指そぞ、
亀ど。



いよいよ京に帰る文殊院
京で文殊院は何をするのか
何を生むのか
そこで亀の目には、
何が映るのか